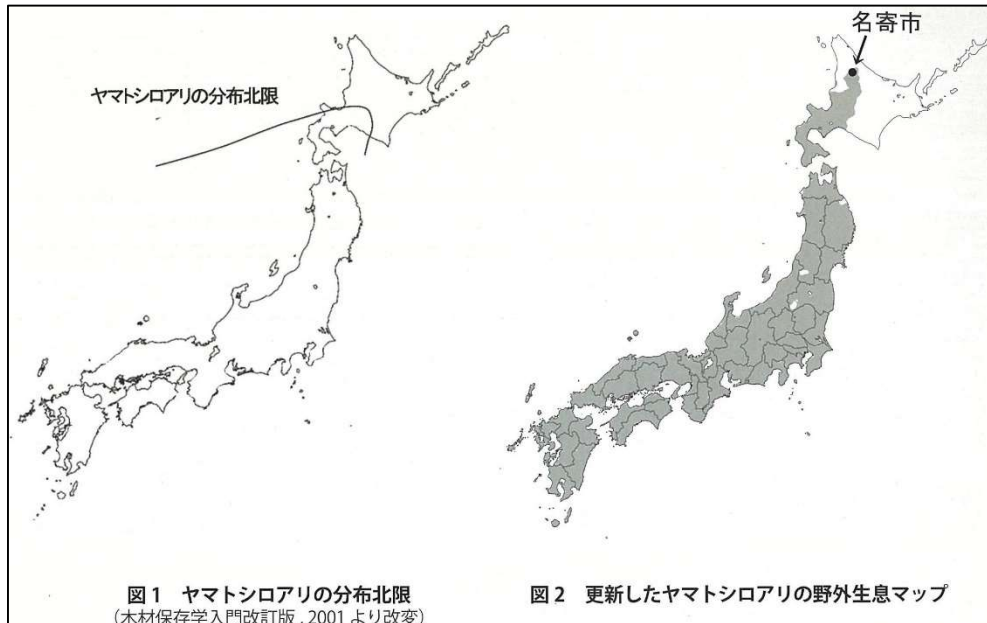


シロアリの生息範囲の拡大と住宅の高気密高断熱化

- ヤマトシロアリ生息範囲の拡大 (引用元：森林総合研究所 平成 28 年版 研究成果選集)

森林総合研究所の調査によると、ヤマトシロアリの野外分布の北限は 2001 年の段階では下図 1 のように札幌市付近でしたが、2015 年の調査では下図 2 のように北海道北部 (名寄市) まで生息範囲が拡大したと報告されています。シロアリは変温動物で、ヤマトシロアリは 12~30℃を好むことが知られており、地球温暖化がシロアリの生息範囲の拡大に寄与している可能性も考えられます。



ヤマトシロアリの生息分布

- 住宅の高気密高断熱化とシロアリ被害 (参考：しろあり第 172 号 (青山達哉 (2019) 北海道の基礎断熱構造住宅におけるヤマトシロアリ被害家屋と発生要因について)

(公社) 日本しろあり対策協会によれば、北海道におけるヤマトシロアリによる被害は年々増加しています。北海道でのシロアリ被害の拡大は、上述したシロアリ分布の拡大の影響もあると推測できますが、北海道の住宅では基礎断熱の採用率が高く、住宅の高気密高断熱化が進んでいることもシロアリ被害が拡大する一因と考えられます。一般的な断熱材は柔らかく、シロアリは断熱材の中を加害しながら進むことができます。

シロアリが生息できない外部環境の地域でも、住宅の高気密高断熱化により、シロアリが生息できる環境となり、被害が拡大していくことも予想されます。



シロアリに加害された断熱材